

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	重症児デイサービスkokoro				公表日	2025年 3月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20		利用者が多い時はベッドを移動したりして広く使えるよう工夫している。 子どもが多くなる長期休み期間は、教室を開放している。	マットに降りる子どもが多いとワゴンの設置場所など危険と思う時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	20		ケア依存度の高い子どもに対しては日によってスタッフの人数を変えて対応している。 利用児が多い時などは、その場で遊べる療育等を行い工夫している。	利用する子ども達の人数に合った職員さんがいると思う。時々、看護師さんが少なくなってしまうことはあるかと思うので、一人担当がいると良いかと思う。時折、見守りが必要な子どもを複数に対して、スタッフ1~2人で対応しなくてはならない時は、不安を感じることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	1	バリアフリーはもちろんできているし、窓が多く明るく、教室、療育室と分けてあり、授業中に子ども達に何かあればすぐいけるようになっている。 壁も子どもが好きなような壁紙にしている。	自分の身支度の練習が出来る子がいれば、靴箱やロッカー等への印付け、手順表などで構造化を図ってきたい。 廊下や通路に物やバギーがあるので、利用児の通行の妨げになっているので改善が必要。 床で過ごす子どもの目線をもう少し考えたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20		感染対策委員を中心に作成した清掃表をもとに朝と夕に清掃をして清潔が保たれる工夫をしている。 活動によっては、ベッドやワゴンを動かし空間を確保している。 子どもに安心を与える様な壁紙の工夫がある。	過ごせる環境の反面、頭上に物があつたりと見直す所あり。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	2	処置や状況に応じて個別で対応できている。 ケアによって部屋を変えたり、気持ちが悪く着くように工夫している。	ついたて等でプライバシーを守る配慮はしているが、ワンフロアでなかなか難しい。開かれた空間なので個別になる空間は、常時提供できていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19	1	業務の改善が必要になった時にはみんなで話し合いより良くなるよう考えて共有できるようにしている。 業務改善のために各部署ごとに意見を集め、リーダー会議で検討するなどできている。	業務改善のためのPDCAサイクルはできているとはいえないかもしれない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	ホームページのせ、誰でも見れるように公開しているため、保護者意向を把握し業務改善に努めている。 評価表を配信・配布し意見の集約がされスタッフが全員確認する方法をとり改善へつなげられている。	評価表により意向等は把握できているが、改善に向けて広く職員で話し合う等はできていない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	日々のミーティングや月のリーダー会にて意見交換を実施し業務改善につなげている。 日頃から分からない事困ったことを言えるような人間関係の構築に努めている。	意見の傾りがあると感じる。 もっと機会があるといいかもしれない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	10		第三者による外部評価がされているか分からない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20		定期的に勉強会を行い、個人のスキルアップを図っている。 研修の報告積極的な外部研修により質の向上に努めている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1	療育は5領域に分けてプログラムを構成されている。	支援プログラムは作成しているが、公表されているか周知できていない。

12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	1	児発管を中心に、日々の生活の中での様子や日々の生活の中での様子やモニタリングなどを通して作成できている。 定期的な保護者へのモニタリングが実施され、子供の情報や保護者の意向を聞いた結果をもとに適した支援計画を作成している。 朝の時間で、様々な業種からの意見をもとに追加、修正できている。	児童発達支援計画作成に携わる機会がなかった。
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	2	計画を作成する前に看護師、機能訓練士、保育士を交えて検討が行われている。職員からの意見も取り入れることができるように話し合いの機会が設けられている。	勤務が少ないスタッフには伝わっていない事も多く、情報収集できていないで児童に関わっていることもある。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20		計画はみんなが見えるよう工夫されていて、いつでも計画の確認も出来るようになっている。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	3	標準化されたアセスメントツールは、当事業所の対象児には適応しにくく用いていないが、行動観察からアセスメントしている。	アセスメントツールはあるのかもしれないが分からない。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	1	個別支援計画書の内容が細かくなったことで、より具体的な支援内容になった。 モニタリングを実施することで、本人・家族の思いを知る事ができている。	児童発達支援ガイドラインの全容について内容把握していなかった。「移行支援」や「地域支援・地域連携」については、具体的な支援内容が設定されているのか分からない。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	1	チームで相談、意見を出し合い行っている。 チームだけでなく、他職種にも意見をもらうことで、活動プログラムの幅も広がるように工夫している。	事業所の大きなイベントは全職員で行っているが、日々の療育は保育士が主に立案。他職種の意見ももう少し取り入れられると良い。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	1	毎月、活動を見直ししながら次月の活動を計画している。季節ごとの活動や新しい活動を取り入れ、固定化しないよう工夫している。他事業所を参考にすることもある。	多職種とも協力していきたい。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19		一人ひとりのその子らしさを把握して、体調面も含め考え、支援するようにしている。 集団での活動、個別での関りが日々できるよう、意識を持って支援している。	個別活動の必要性も感じるが、集団活動とのバランスを考えるのが難しい。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20		その日の支援内容、役割分担について事前に確認をしている。 ミーティングなどで話したり、ホワイトボードに記入してあったりし、スタッフ一人ひとりに分かるようになっている。	行われている保育士以外の職員にも意図や役割がもっと伝わるといい。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	9	その日の内容について気付いた点はフィードバックを行い、より良い支援計画になるよう修正している。	時間と場を設けて実施することはできていない。ミーティングやノートなどをもっと活用すべきである。 職員全体への共有ができればもっと良い。その日のうちには、気付いた点の共有ができないことがある。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18	2	支援の検証、改善を繰り返し、個別性を活かしている。 実施したことは細かく記録し、できていない時はお互いに声を掛けあう事ができている。	個々の子どもの記録の記入はできているが、その支援の検証までは十分にできていないように感じる。 リハビリに関しては専門的支援に入った際に記録を残すことができているため、検証・改善につなげたい。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	1	定期的なモニタリングが行われており、内容もスタッフ間で共有されておりその情報もふまえ行っている。	定期的なモニタリングに携わる機会がなかった。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19		代表や児童発達支援管理責任者など、子どもの日々の様子や取り巻く環境について充分理解した職種が参画している。 管理者が参加し他職員に伝えている。	各会議の全容について理解、把握していない。

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20		地域の各所関係機関と密に情報共有、カンファレンスを行い、地域全体で利用児を支えている。利用児の療育活動の見学等もある。特にこども病院との連携は十分にとれており、緊急時の対応について共有されており、疑問点については連絡を取り、解決するようにしている。 授業も事業所内で行っており、支援学校の教員と連携を図ることができている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	5	入学・入園前に学校や保育所へ、こどもの発達状況や伸びしろ、保護者の思い等を踏まえた情報共有、理解に努めている。	全容について内容を理解できていない。 支援学校（通学）での場合は、情報が少ないのかもしれない。 一般の保育所や幼稚園を利用する子どもが少ないので情報共有の機会が少ないが、行事などの見学などできると良い。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	1	児発管と学校側との間で情報共有の体制が整っており、移行前に教員が児と対面し、共通理解できるようにしている。 訪問教育もあり、施設内での日々の様子や必要なケア、家族の情報や気を付けた方が良い事等こどもの特徴について等、教員に細かく情報共有している。	全容について関わる機会がなかった。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	2			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	9		まだ地域の児童発達支援センターとの連携内容について理解できていない。 機会を設けているのか把握できていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	18	1	民間学童 MAPSさんと季節に応じたイベントやゴミ拾い等の地域貢献活動など定期的に交流を行い、互いに良い刺激、相乗効果をもたらしている。	未就学児同士の交流がない。今後更なるよう地域の保育施設などにはたらきかけていけると良い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20		送迎時や受け入れ・送り出しの際に、保護者へ利用中の健康状態も含めて活動の内容や反応などを伝えるようにしている。 スタッフ間でも課題の共通認識に努めている。 連絡帳で伝えることを意識している。 モニタリングなど伝え合う機会がある。	発達状況などについて情報を得ることは少ない。 全員への共有がもっとできれば良い。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	12	家族が参加できる研修があれば、提供している	ペアレント・トレーニングの情報提供をしたという話は聞いたことがないため、行っていないと思う。 研修の機会や情報提供等を設ける必要はある。 家族支援プログラムの内容について、まだ内容理解できていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20		自分は実際に行ったことはないが、契約の際に代表や管理者がしっかり行っている。支援プログラムに関しては、保育士が説明している。 書面と対面で実施している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	1	面談やモニタリングの際に家族の意向を確認した上で、子ども優先で考えられている。 意思表示が困難な児に対しては、保護者からの情報を基に判断したり、保護者の要望に応じた視点で作成されていると思う。	児童発達支援計画作成に携わる機会がなかった。

37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18	2	自分は実際に行ったことはないが、管理者がしっかり行っている。 保護者へも支援計画を渡し、同意を得ている。	支援計画はできたものを連絡帳ファイルに入れてお渡しし、家でも目を通してサインをもらっていた。対面で提示しながらの説明の機会は設けていないと思う。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 家族に対しての支援は行っているが、家族が参加する研修や情報については把握できていない。	20		随時行っている。 電話や送迎時、モニタリング等で相談を受ければ適宜対応している。 送迎時などで相談を受けた際、すぐに答えられない事は1度みんなで話し合い、回答している。 家族の不安や悩みに耳を傾け、適切な家族支援を行っている。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	19		夏祭りやお楽しみ会、きょうだいの日のイベントを行い、保護者やきょうだい同士で交流する機会を設けている。 家族が集まり、他家族との情報交換やきょうだい児のイベントを行い、家族の孤立を防いでいる。 父母会はないが、事業所でのイベントを通じて保護者間の交流が広がり、交流が続いていると思う。	少人数の集まりの開催などがあると交流が深まると思う。 あらためて保護者会開催などは行っていないが、保護者向けの集まりを企画してみても良いと思う。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20		保護者から相談などあった際には、速やかに対応できるよう連携を図っている。 丁寧な対応をした後、再び同じことが起きないように話し合う。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20		月1回当事業所の活動内容について書面でお便りを発行したり、SNSで発信したり、内容周知している。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	1	手紙を連絡帳ファイルに入れる際にはダブルチェックし間違いを防止している。 個人情報の書類は鍵をかけ保管されている。 写真をとる際、個人情報がうつらないように等十分に注意している。また、公開時にはダブルチェックをしている。 個々の病状や問題について多言せず、利用児間でも情報が漏れないよう留意している。	施設は充分に行っていると思う。自分ももっと気をつけていきたい。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20		自分の想いを言語化することが難しい利用児たちでも、目線が表情を通して気持ちを汲み取る配慮をしている。 アイコンタクトやハイタッチ等、こども一人一人に適した配慮をしている。 対応する時には必ず声をかけたり、その時の表情やしぐさから判断することを心掛けている。判断材料も保護者に確認している。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	7	近くの学童の子供達を招いて交流を図っている。招待ではないが、地域で開催しているイベントに行ったり、近隣のゴミ拾いをしたり、地域との関りを増やしている。事業所の駐車場で定期的にキッチンカーを招き、交流の場になっている。	地域住民を招待するようなイベントは行っていない。散歩でのあいさつ程度にとどまっている。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	それぞれマニュアル化しており、定期的に訓練を実施し、その様子をホームページに掲載している。地震を想定した訓練や火災時の消火器の使い方や防犯訓練など、積極的に行っている。	各種マニュアルはあるが、それを家族には周知していない。訓練も行っていく必要がある。マニュアル作成しているが、職員や家族への周知までは不十分な部分がある。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	1	個別の避難方法を記載したり、消防士を招いての訓練も行っている。その子その子の救出方法も考え表示されていたり、マニュアル作成してあったり訓練も何度か行われている。訓練に参加できなかった人へも動画などで情報共有の機会がある。	継続的に運用していく必要がある。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20		医師指示書、お薬手帳の変更時はタイムリーに確認しています。 一覧表にして分かりやすくまとめられている。薬が変更になった場合は、必ずお薬手帳を持参するように伝えている。	予防接種は不明。

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	3	現在該当者はいませんが、指示書通り対応致します。 アレルギー対応が必要な場合は全職員が把握するようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	2	安全計画を作成し、計画に沿って、点検や訓練を行っている。安全管理に必要な項目をリスト化し、毎月安全点検を実施している。	安全計画が何かが分からない。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	3	災害時の対応や連絡先等を定期的に変更はないか確認を行っているため、家族に周知できている。	安全計画が分からない、把握していない
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		ヒヤリハットやインシデントが起きた後には話し合いを行い、再発防止に努めている。小さなヒヤリでも共有し、改善に努めている。朝のミーティングで話し合ったり、ミーティングに参加できない時は記入されたものがスタッフの共有の場にあり、分かりやすくなっている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19		虐待防止委員会が研修に参加したり、アンケートで一人一人が虐待の早期発見できるようにしている。委員を中心に研修に参加し、内容を周知、虐待につながる言葉かけなどみんな注意できている。外部研修に参加し、情報共有し、意識の向上に努めている。	定期的に研修に参加し意識をあらためられるとよい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20		身体拘束の必要性について十分にアセスメント、検討を行い、計画に反映した上で利用児にとって最善の支援を行っている。同意をとっていると共に、毎日の活動時のバギーベルト使用時間なども細かく記入している。	バギーのベルトやミトンなどを装着する際の声掛けが出来ていない時もある。本人への同意は取れていない。